

■参考資料:本ビジョンに関する用語解説

アセスメント

対象者(利用者)やその家族から健康や生活状況、困りごとや将来の希望(ニーズ)などの情報を収集し、収集した情報を整理、分析することで支援課題や支援方法を検討すること。

インフォーマルサービス

専門の人(福祉の職員など)が提供するサービスではなく、対象者(利用者)や家族が生活する地域の人たちや社会資源による支え合いや、日常生活で便利な機器や宅配弁当などを導入する工夫も含まれます。

エンパワメント

生活のしづらさを抱える対象者(利用者)が、自分の力を信じて、自分らしく生きていけるよう働きかけるとともに、時には暮らす地域に働きかけ、環境面を変えながら支援すること。

ケアマネジメント

「利用者の社会生活上でのニーズを充足させるため、利用者と適切な社会資源を結びつける手続き」と定義されています。具体的には、福祉・雇用・保健・医療・住居などの各種サービスだけでなく、ボランティアや近隣からの支援も調整することで地域生活と社会参加を支えます。(白澤政和 2019)

コミュニティワーク

地域の人たちが協力して、みんなが安心して支えあいながら暮らせるようにする活動のことです。たとえば、近所の人と一緒にゴミ拾いをする、子ども食堂を開いてごはんを食べるなどといった活動を通して、人と人が繋がり、地域が元気になり、障がいのあるなしに関係なく、お互いに「支えあう地域」へと変化するように働きかけます。

スーパービジョン

障がい福祉サービスに携わる職員が提供するサービスの質を一定の水準に保つため、また向上するために、課題解決の方法や職員自身の自己理解を促進する教育的な側面と、携わる職員を支える支持的な機能などがあり、一対一でおこなう個別スーパービジョン、グループで行うグループスーパービジョンなどがあります。(日本ソーシャルワーク学会 2013)

スーパーバイズ

より経験のある支援者が専門的な指導・助言を行って支援の質を向上させる人材育成の技法。

スーパーバイザー

スーパービジョンを実施する人。

スーパーバイジー

スーパービジョンを受ける人。

ストレングス

「できること」「知っていること」、資産や友人などを「もっていること」や、「こうしたい」といった願望や意欲、自己肯定感など。また、環境のストレングスとして地域社会にあるフォーマル、インフォーマルなすべての社会資源や社会との関係も含まれます。(日本ソーシャルワーク学会 2013)

ソーシャルワーク

社会福祉援助のことであり、人々が生活していく上での問題を解決・緩和することで、質の高い生活(QOL)を支援し、個人のウェルビーイング(よい状態、幸せ)の状態を高めることを目指していくことです。(日本学術会議 2003)

ファシリテーション

地域や職場内で開催される会議や多職種での支援において、チームの力を活性化するための支援技法。

ファシリテーター

会議や研修などの場で、参加者が円滑に意見交換をしたり、目的を達成したりできるように支援する役割を持つ人のことです。

■参考文献

- ・日本学術会議(2003)「ソーシャルワークが展開できる社会システムづくりの提案」
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/18pdf/1821.pdf>,2025.09.20
- ・日本ソーシャルワーク学会(2013)「ソーシャルワーク基本用語辞典」川島書店
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2023)「実践ソーシャルワーク・スーパービジョン」中央法規
- ・白澤政和(2019)「ケアマネジメント論」ミネルヴァ書房